



令和6年3月22日(金)
練馬区立開進第四小学校
校長 関川 健

開四小だより

春休み号

黄色い校帽

校長 関川 健

「一瞬、黄色の動くものが視界に入ったのでブレーキを踏みました。」
連絡を聞いて現場に駆け付けた時、トラックの運転手の人が言った言葉です。

数年前のある朝、道に飛び出した低学年の小学生がトラックと接触したという連絡がありました。私は校門で登校する子供たちを迎えている最中でしたが、すぐさま全力で自転車を漕ぎ現場に向かいました。既に救急車が到着し怪我の状態を確認していましたが、幸いにも大きな怪我ではなさそうでした。ホッと胸を撫で下ろしました。しかし、事故はなぜ起きたのでしょうか。話を聞くと、トラックが角地のコンビニの駐車場に入ろうと歩道を横切ろうとしたタイミングで子供が死角になっている路地から走って飛び出して来た、いわゆる出会い頭的な事故のようでした。しかし、冒頭の言葉のように、黄色の校帽が運転席から見えたことでいち早くブレーキをかけることができ、事故のダメージを最小限に食い止めることにつながったようです。



練馬区では、多くの小学校で校帽を採用しています。学校によって色はまちまちですが、黄色系の校帽を採用している学校が多いようです。ある読み物で目にしたのですが、小学生用に黄色の帽子を提案し普及させたのは、1950年代の和歌山県警所属のある交通課係長だったそうです。当時交通事故死者数が年間1万2千人にも上り、子供も多く犠牲になる中、なんとかして事故を減らしたいと考えていたその方は、西部劇に出てくるカウボーイのオレンジ色の帽子が広い荒野の彼方にもよく見えることにヒントをもらったそうです。様々な実験を経て、天候や時間帯に関わらず最も視認性が高いのは黄色い帽子であることを突き止め、管内の児童に着用を呼び掛けたことから始まって全国へと普及していったそうです。

校章が入って内側に臙脂の差し色が入った開四小の校帽は、なかなか可愛くお洒落だと思います。毎朝ランドセルを背負い、校帽を被って笑顔で登校してくる開四小の子供たちを校門で出迎える時間が私は大好きです。しかし時々、命を守ってくれるかもしれない大事な校帽を手を持って来て、校門の前で被って学校に入って来る児童を見かけます。私はその都度、「校帽は道を歩くときに被って来てね。」と声を掛けています。下校の時はどうでしょうか。学校の先生の目があるかないかが校帽着用判断基準であってはいけないのですが・・・。

校帽は子供たちにとって、開四小の児童であることの所属意識をもつこと、地域の方々に見守っていただく目印になること、そして交通事故をはじめ突発的な何かから身を守ってくれることに繋がるかもしれないものです。子供たちには、安全に、健やかに成長していくための大切な相棒として、校帽を大切に、しっかり被って登下校してほしいです。各御家庭の保護者の皆様も、今一度お子様と校帽の着用について話題にしてみてください。

1～4年生は今日までで令和5年度が終わりです。5・6年生は25日の卒業式までです。新年度まで、短いですが春休みとなります。少し気持ちがふわふわした時期になりますが、事故なく安全に過ごせるよう願っています。保護者の皆様、地域の皆様には、この1年間本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。